

令和2年6月 鹿島市定例記者会見

日 時 令和2年6月16日（火）10時00分～

場 所 市役所 3階 庁議室

1. 開 会

2. 市長の発言

- ・質疑応答

3. 市からのお知らせ

- ・企画財政課からのお知らせ
(地域とつながる高校魅力プロジェクトについて) (資料2)

4. 団体等からのお知らせ

- ・鹿島市民立生涯学習・文化振興財団からのお知らせ (資料3)

5. 行事のお知らせ

- ・別紙参照

6. 閉 会

次回は7月定例記者会見

7月15日（水）10時00分～

市役所 3階 庁議室

問合せ・連絡先 総務部企画財政課

TEL 0954-63-2114 松丸

佐賀県鹿島市 定例記者会見資料



報道機関 各位

部課名

企画財政課

件名	「地域とつながる高校魅力づくりプロジェクト」について
アピールポイント	少子化が進行するなか、地方においては東京圏をはじめ、都市部へ若者が流出しているが、そのきっかけは、 (1)高校卒業後の進学、就職 (2)大学卒業後の就職 (3)結婚 以上の3要素と言われている。将来的に生産年齢の人口減少が予想されるが、少しでも鹿島市内の高校生が地域活性化への取組や地域資源の豊かさを理解するとともに、既に地域で活躍している人材と交わるなど教育環境の向上を図ることで、地域を愛する心を育み、魅力と活力ある高校づくりを目指し、令和元年度から3ヶ年の計画でスタートしている。
説明	上記の趣旨から、鹿島高校と鹿島市が連携し、2年目の今年も、昨年同様、以下の取組みを行うこととしている。 件名 地域とつながる高校魅力づくりプロジェクト(鹿島市職員からの講義) 実施日 令和2年6月19日(金) 対象生徒 佐賀県立鹿島高等学校1年生 230名 講義内容 鹿島市から見る7つの分野について鹿島市職員7名が講義を実施。 ①地域・経済②国際関連③医療・福祉④環境・生活⑤社会・文化 ⑥科学技術⑦食 講義時間 6・7限目14時00分～15時40分 参考 ①1回の講座で2コマ(1コマ40分～45分) ②2コマとも同一講師、同一内容 ③鹿島高校赤門学舎 1年教室と特別教室を利用
別添資料	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし

本件に関する問合せ先

所属	企画財政課
氏名	納塚真琴
TEL	0954-63-2101
FAX	0954-63-2129
Mail	makoto-noutsuka@city.saga-kashima.lg.jp

「地域とつながる高校魅力づくりプロジェクト」 概略

佐賀県立鹿島高等学校

1. プロジェクトの概要

県立高校と高校の所在する市町等が協働し、地域的課題の解決など地域活性に資する取り組みや、地域ならではの資源や人材を活用した教育環境の向上への取り組みを行うことにより、生徒に地域を愛する心を育み、魅力と活力ある高校づくりを推進する。

2. 本校の目標

- (1) 鹿島市との連携を深め、鹿島市唯一の学校としての存在価値を高める。
- (2) 生徒達は学校内では経験できない教育活動に取り組み、様々な人々とコミュニケーションを取る中で多様な価値観への対応力を身につける。
- (3) 生徒達が活動する中で地域の自然・社会・文化への理解を深め、将来の地域経済発展に貢献できる人材育成の足掛かりとする。

3. 実施計画の概要

鹿島市が抱える課題を解決するにはどうすべきか、鹿島市の天然資源の有効活用は出来ないかなど、高校生ならではの自由な発想をもとに鹿島市や鹿島市内の事業所へ企画やビジネスプランなどを提案したい。そのために以下のことに取り組む。

- ① 鹿島市を知る
- ② どんな分野で事業を起こすか、そしてその分野にはどんな課題やニーズがあるかを生徒自らが考える
- ③ アイデアを実現する具体的な計画はどのようなものかを考える

4. 生徒の3年間の流れ

- 1年目** 7分野のグループで活動する。各分野の講師を鹿島市役所職員にお願いし、話をしていただく。講座ごとに探究テーマを提示してもらい、秋に実施する鹿島市職員へのプレゼンに向けて探究活動をグループごとに進める。
- 2年目** 生徒自らが課題を見つけ、解決に向けたプラン作成のための活動するプランを作る過程で市民からの意見を取り入れるなどしてブラッシュアップしていく。提案するうえで必要となるプレゼンテーション能力を向上させる活動も同時進行で取り組む。
- 3年目** 鹿島市や市内事業所へプランや商品を提案する計画を立てたり、鹿島市の課題解決に向けたプランやビジネスプランを完成させて発表会を開催する。

5. 鹿島市との連携（今年度）

第1学年

(1) 【講演】5月22日 …鹿島市長による講演

鹿島市長に鹿島市の歴史や現在の課題を話していただくことにより、生徒の意識の向上をはかった。70分間実施していただき、質疑応答もしていただいた。

(2) 【講義】6月19日 …鹿島市職員による講座

「地域経済」「国際関連」「医療福祉」「環境生活」「社会文化」「科学技術」「食」の7分野について、鹿島市役所職員の方に講師をお願いし、50分の講義をしていただく。生徒は2講座受講し、そのうち1講座について、講義で提示してもらう課題について、今後探究活動を進めていくことになる。

(3) 【助言】11月20日 …探究活動発表会

6月の講座で頂いた課題に対する生徒たちなりの解決案等を、担当していただき鹿島市職員に対しプレゼンする。7教室に分けて開催する予定。プレゼン後、講師の先生から評価、アドバイスを頂き、その後の活動にいかしていく。

第2学年（普通科）

(1) 【助言】7月10日 …定期報告会

1年次の研究の続きで普通科は「地域経済」「国際関連」「医療福祉」「環境生活」「社会文化」「科学技術」を、食品調理科は「食」の研究活動を実施している。1学期の活動の報告会（「テーマ」「研究方法」「研究計画」の発表など）を実施し、鹿島市職員の方にアドバイスを頂く。

(2) 【助言】9月25日 …研究発表会（1次）

7月に決定した「テーマ」「研究方法」「研究計画」などの研究成果の中間発表会を実施し、鹿島市職員の方に研究内容や研究方法、発表の仕方など、幅広く助言をいただく。生徒はポスター発表を行う。

(3) 【講評】12月11日 …研究発表会（2次）

普通科として、継続している研究の最終発表会になり、担当していただいた鹿島市職員にプレゼンを行う。職員の方に講評をいただく。生徒はプレゼンテーションソフトでの発表を行う。

6月定例記者会見チラシ類

第2回エイブル事業 市民参加型公演

1. 演劇公演「ウラシマコタロウ」に参加しよう！

エイブル床の間コーナー

2. ふるさとの文化財展

市民図書館

3. 新図書館長 着任のご挨拶

市民図書館

4. おうちであそべる すごろくプレゼント

市民参加型公演

演劇公演「ウラシマコタロウ」 に参加しよう！

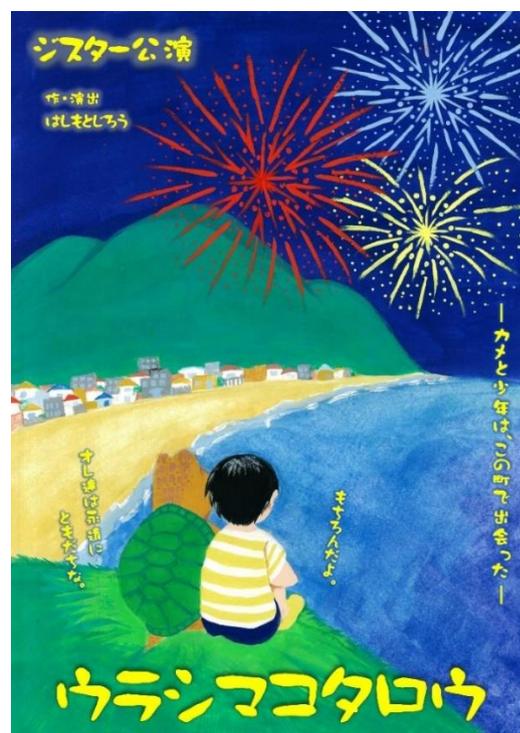
「オレたちは永遠に友達な」
「もちろんだよ」

カメと浦島小太郎の友情物語。

あの誰もが知っている『浦島太郎』を大胆にアレンジ！
感動の作品として生まれ変わった！

そんな『ウラシマコタロウ』の劇中の名場面、
竜宮城でのエンターテインメントショーを華やかに
彩る文化団体を募集します。

令和2年10月18日(日)
13:30 開演 (13:00 開場)
エイブルホール



【参加団体募集！】

演劇公演「ウラシマコタロウ」に参加してくれる団体やサークルを募集します。

劇中の“竜宮城でのエンターテインメントショー”の中で、歌・演奏・ダンスなど物語の構成に合わせて自由な表現で発表してみませんか。

みなさんのパフォーマンスと演劇がコラボレーションすることで、新たな舞台芸術が誕生します！
ご応募お待ちしております！（詳細は裏面をご覧ください）

STORY

とある田舎の海辺の町に浦島小太郎という少年がいた。小太郎は浜辺でポツリと一人、海を眺めている。と、そこへ、一風変わった青年が現れ、嫌がる小太郎にしつこく絡んできた。そこに、亀吉という名のカメが現れ青年から小太郎を助け出した。

「おい、お互い一人ぼっちだから、友達にならないか？」

「え？いいけど。僕は人間だよ。」

「亀と人間が友達になったっていいじゃないか」

亀吉と小太郎は意気投合し、一緒に遊ぶようになる。しかし、小太郎は一つどうしても気がかりなことがあり、心の底から楽しむことは出来なかった。

— 親友がいじめに遭い、何も言わずにこの町からいなくなってしまったこと… —

小太郎は勇気が出せず、親友を助けることが出来なかったことを悔やんでいる。会って謝りたい…。

亀吉はそんな小太郎を心配し、元気づけようと、竜宮城へ行かないかと誘う。

そして、亀吉の甲羅に乗り、海へ潜り竜宮城へ・・・竜宮城では乙姫や召使たちが出迎え、小太郎のために華やかなエンターテインメントショーを開催した。



主催：一般財団法人 鹿島市民立生涯学習・文化振興財団 / 芸術団体：ジスターエンターテインメント

浦島小太郎をみんなて元気づけよう!

演劇「ウラシマコタロウ」と地域の文化団体とのコラボレーション! エンターテインメントショーを華やかに彩る団体を募集します!

竜宮城でのエンターテインメントショーで、小太郎を元気づけるために合唱、楽器演奏、創作ダンス新体操、お笑い等で一緒に盛り上げてくれるサークルや団体を募集します。

参加団体は「浦島小太郎を元気づける」ことをテーマに、物語の構成に合わせて、パフォーマンスの内容を自由な発想で考案し発表（出演）してください。



【参加条件】オリエンテーション、事前打合せ、リハーサル、舞台稽古に参加できる団体

【参加費】無料 ※公演を鑑賞される方はチケットが必要になります。(有料)

【定員】3～4組 (応募多数の場合は選考となります。)

【内容】約20分のシーンの中で、複数の団体がパフォーマンスを行います。(1団体5分～10分)
※構成人数や内容などを考慮し、時間配分をご相談する場合があります。

【申込期間】6月16日(火)～7月21日(火)

【申込方法】申込書に必要事項を記入して、直接エイブル事務局までお持ちください。

※申込書はエイブル事務局又はホームページからダウンロードできます。

【その他】出演料、交通費などの支給はありません。衣装などは各団体で準備してください。



公演に向けての準備・流れ



【オリエンテーション】

パフォーマンスエリア、時間等を確認し、打ち合わせを行う。



打ち合わせた内容を元に、パフォーマンスの内容を考え、創作をする。



公演当日、場合によっては前日に舞台セットが組まれた状態で、スタンバイや舞台の出入りの確認。出演者と共に、音響、照明も合わせた最終リハーサルを行う。



パフォーマンスがある程度形になってきたら、動画等にて主催者、芸術団体との確認作業を行い、照明のイメージや使用音源等の詳細を打ち合わせする。



いざ、本番へ
エンターテインメントショー
開幕!!

【申込・問合せ先】

(一財) 鹿島市民立生涯学習・文化振興財団
〒849-1312

佐賀県鹿島市大字納富分 2700-1

(鹿島市生涯学習センター・エイブル2階)

TEL : 0954-63-2138

FAX : 0954-63-3424

〈エイブル・鹿島市役所生涯学習課連携〉

ふるさとの文化財展

【期間】 **令和2年4月1日(水) ~ 6月28日(日)**

前期：4/1(水)~5/24(日) 後期：5/27(水)~6/28(日)

【場所】 鹿島市生涯学習センター・エイブル 2階 床の間コーナー

4~6月の床の間コーナーは、鹿島市内にある指定文化財を展示します。鹿島市には、貴重な文化財が多くあり、二期に分けて紹介しています。前期は、旭ヶ岡遺跡から出土した鉄戈や銅矛のほか、岩屋山や蟻尾山麓の片山から出土した経塚遺物などを展示しました。

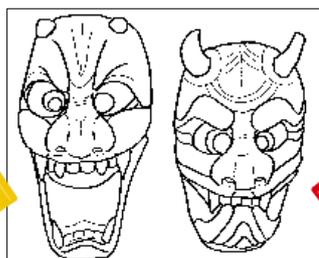
後期は、救世神社の石造狛犬や七浦・龍宿浦地区の面浮立の古面、佐賀県の重要文化財の刀などを展示します。今回初めて展示する鹿島城赤門の「棟札」は、昭和15年の塗り替え工事の際に偶然発見されました。赤門は、鹿島城が落成して一年後の文化5年(1808)に建立されたことが分かります。この棟札の発見をきっかけに、当時の鹿島高校では「赤門祭」が開催されるようになりました。

なかなか見る機会が少ない、貴重な文化財資料です。ぜひ、ご覧ください。

また、「おうちでミュージアムをたのしもう」という北海道博物館の趣旨に賛同し、「おうちミュージアム」を実施しています。

かしまのたからもの！ぬりえ

鹿島市の文化財をぬりえにしました。ホームページに載せて、館内でも配布しています。色をぬったら、エイブルに持ってきて、本物も見てくださいね。



おうちミュージアム #おうちミュージアム SNSでもシェアしよう!
おうちで たのしく まなべる



▲刀(大磨上 無銘 伝行光)



▲赤門の棟札

一般財団法人 鹿島市民立生涯学習・文化振興財団

エイブル事務局 小池・梶山

TEL/0954-63-2138 FAX/0954-63-3424

鹿島市役所生涯学習課 社会教育・文化係

TEL/0954-63-2125

昭和30年1月1日指定

かたな おおすりあげ むめい でんゆきみつ

刀 大磨上 無銘 伝行光(一口)

所蔵(所在地)…佐賀県立博物館(佐賀市)

鹿島藩主はいとう佩刀といわれ、鹿島鍋島家に伝えられた刀です。

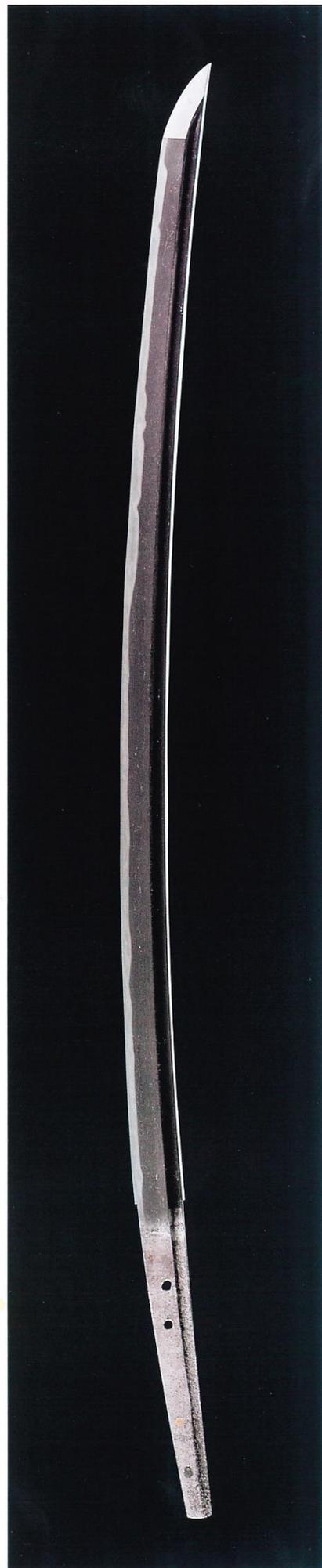
この太刀は無銘ですが、鎌倉末期の名工ゆきみつ行光の作と伝えられています。

行光は相州(相模国:現在の神奈川県)の名匠しんとう新藤五国ごくにみつ光の弟子であり、刀工の一派である相州伝の完成者、五郎入道ごろうにゆうどうまさむね正宗の父といわれます。

長さ71.9cm(2尺3寸)、反り1.8cm。しのぎづく鎚造りで、身幅は広く、ぼうひ棒樋がなかご茎の下まで通っています。茎は大磨上で、めくぎあな目釘穴が4個あり、うち2個は埋められています。もと、俱利伽羅を金線で描いた跡が一部残っています。

なお、南北朝時代に作成されたおおだち大太刀の特徴を伝えていることから、実際の制作年代はやや下るのではないかと考えられています。

※大磨上…長大な刀を切り詰めて短くし、銘が無くなるほどに磨上げられたもの。



昭和33年1月23日指定

かしまじょうあかもん おおてもん
鹿島城赤門及び大手門

あかもんむなふだ

(附)赤門棟札(文化5年の銘あり)1枚

所蔵(所在地)・・・鹿島市・城内

かしまはん
鹿島藩2万石の居城であった鹿島城は、文化4年(1807)に北鹿島の常広城つねひろじょうから移転しました。明治7年(1874)の佐賀戦争(佐賀の乱)の混乱によって、城の主要建物はほとんど焼失してしまい、当時のまま現存しているのは赤門と大手門のみです。

赤門は本丸御殿ほんまるごてんの正門にぬで、古くから丹塗りであることから「赤門」として市民に親しまれています。現在は、佐賀県立鹿島高等学校(赤門学舎)の校門として使用されています。

赤門の修理の時に発見された棟札には「天神地祇八むなふだ百万てんじんちぎや神守護御門安全 城主藤原朝臣直彝およろずのかみ 文化五ふじわらあそんのおり戊辰つちのえたつうるう閏六月廿八日にじゅうはち」と書かれてあり、鹿島城が落成して1年後の文化5年(1808)の建立と分かります。

なお、この棟札の発見を記念して、昭和17年(1942)から学校祭である「赤門祭あかもんさい」を開催する事になった経緯について、当時の鹿島中学校 西田實校長が木板にしたためています。

→
鹿島城赤門



豊磐牖命

文化五戊辰年

天神地祇八百萬神守護御門安全

城主藤原朝臣直彥

櫛磐牖命

閏六月廿八日

祭主神明祠官

政香

てんじんちぎ
※天神地祇

…天神(天つ神)と地神(国つ神)。

とよいわまのみこと くしいわまのみこと
※豊磐牖命・櫛磐牖命

あまのいわとわけのみこと
…天岩戸別命の別名。門をつかさどる神。

あそんなおのり
※城主藤原朝臣直彥

…鹿島藩 9 代藩主鍋島直彥なおのりの事。鹿島藩は無城主各大名であるため、「城」を持つことができません。このため、鹿島城も当時は「高津原屋敷」や「鹿島陣屋じんや」などと呼ばれていました。

しかし、門に納められた棟札には、「城主」とあります。

「赤門祭」の由来を記す木板

※参考資料として展示

《内容》

「本校赤門は 鹿島城本門として 鍋島家第9代直彝公 文化5年閏6月28日(昭和17年より135年前)の御造営竣工なること 昭和15年8月に紀元2600年記念として 国旗掲揚台の建設と共に校門の塗換工事を行へる際 右の棟札を屋根裏よりたまたま発見して 其の年月日を明確にするを得たるを以て 毎年新暦7月28日に 赤門祭を挙行することとす

昭和17年7月28日 第一回赤門祭

佐賀県立鹿島中学校長 西田實」

本校赤門ハ鹿島城本門トシテ鍋島家第九代直彝公文化五戊辰年閏六月廿八日(昭和十七年ヨリ百三十五年前)ノ御造営竣工ナルコト昭和十五年八月ニ紀元二千六百年記念トシテ国旗掲揚臺ノ建設ト共ニ校門ノ塗換工事ヲ行ヘル際右ノ棟札ヲ屋根裏ヨリ偶々発見シテ其ノ年月日ヲ明確ニスルヲ得タルヲ以テ毎歲新暦七月廿八日ニ赤門祭ヲ挙行スルコトトス
昭和拾七年七月廿八日第一回赤門祭
佐賀縣立鹿島
中學校長 西田實

※^{きげん}紀元2600年

…昭和15年(1940)は、^{じんむ}神武天皇が即位して2600年となる記念の年であるとされ、全国様々な祝賀行事が展開されました。

もくぞうしんぞう もくぞうこまいぬ
木造神像(1対)・木造狛犬(1対)

所蔵(所在地)…中尾天満宮(古枝・中尾区)

中尾天満宮は、もと興善院の内にあつたものを、延宝年間(1673~1681)に村の鬼門の守護として現在の位置に移し、社殿を建築したと伝えられています。

御神体である神像は楠材の一木造りで、一部に胡粉と彩色の跡が残ります。男神像は高さ 33.5 cm、女神像は高さ 28.6 cmで、神像の背面には天満宮の建立よりも 100 年以上古い永禄4 年(1561)の墨書銘があります。墨書銘によれば平直家・貞誉なる人々の発願によって、在地の彫師が制作したと想像されます。紀年銘を有する市内唯一の伝存神像として貴重な資料です。

木造狛犬 1 対は神像を守護するためのものです。目や口を誇張して表現し、体に比べ頭が過重気味になっています。年代が分かる神像に付随する木造狛犬として、市内唯一であり極めて重要な資料です。



中尾天満宮→



せきぞうこまいぬ

石造狛犬(1対)

所蔵(所在地)・・・救世神社(能古見・下浅浦区)

の ご み し も あ さ う ら く せ ひ ぜん こ ま い ぬ
能古見下浅浦の救世神社に安置されている1対の「肥前狛犬」です。1体は高さ26.6 cm・長さ34.7 cm、もう1体は高さ22.7 cm・長さ30.2 cmと小型の石造狛犬です。

軟質の安山岩あんざんがんから像を刻みだしてあり、浅い浮き彫り様式で、顔や体を弧線こせんと直線とで素朴に表現してあります。牙や頭部の巻き毛なども刻まれず、尻尾もわずかに突起させるだけで、抽象的な形状をしており、全体的に動きも乏しく感じられます。

このような特徴は、室町時代末期から江戸時代前期にかけて肥前地方を中心に製作された、地方色豊かな「肥前狛犬」ひ ぜん こ ま い ぬに共通ものです。

背面に「吉田□□衛、元和二年八月吉日」と銘があることから、江戸時代前期の元和2年(1616)8月に彫像され、寄進されたことが分かります。制作年代の分かる肥前狛犬としては、県内でも最古の部類に入るものです。



↑救世神社



やのうら めんぶりゅう めん いいだ めんぶりゅう めん
龍宿浦の面浮立の面(1対)・飯田の面浮立の面(1面)

所蔵(所在地)・・・龍宿浦区・飯田区 (※一部鹿島市教育委員会)

鹿島市内で最も多くの面浮立が伝承されている、七浦地区ななうらに伝わる面浮立の古仮面です。龍宿浦区に伝わる面は雄・雌の一对。飯田区に伝わる面は雄面おすめんです。

これらの古面は桐材きりで、目の瞳部分ひとみが飛び出て銅板を埋め込んであるという特徴があります。また、角は雄・雌共に桐材の埋め込み式です。全体に胡粉ごふんを下地にして、彩色を施した痕跡が所々に残っています。いずれの古面も、作者や製作年代は不明ですが、造形的にも優れており、300年ほど前の作品ではないかと推定されます。

面浮立に使う古仮面は、現存するものが極めて少なく、その中で最も古いと考えられるものが、龍宿浦と飯田の古仮面です。面浮立の伝承地から考えても、鹿島市七浦地区たらちようや太良町が面浮立の本源地と考える説もあることなどから、七浦地区に古仮面が伝えられている事は、面浮立を研究する上でも極めて重要な意義があります。



↑ 龍宿浦区



↑ 飯田区

いわ や さん こう ほう じ わ に ぐ ち
岩屋山興法寺 鰐口(11個)

所蔵(所在地)・・・蓮巖院(能古見・大殿分)

鰐口とは社寺の軒先にかげられ、参拝者が前面に垂れた鉦かねの緒おと呼ばれる布縄を振って、打ち鳴らす道具の一種です。材質は一般に鉄や銅の鑄造製ちゆうぞうで、形状は偏平円形へんぺいえんけいをしています。その形状が鰐(サメ)の口に似ていることからこの名称が付ききました。

岩屋山興法寺こうぎょうだい し かくぼんは興教大師こうぎょうだい し覚鑊上人かくぼんの修行地との伝承もあり、平安時代にさかのぼる古刹こさつです。江戸時代になると観音信仰の霊場としても栄えました。

この岩屋山興法寺に寄進された鰐口は、江戸時代の寛文5年(1665)～天保4年(1833)までの8個と、無銘の3個の計11個の一括資料いっかつです。大きさも様々で、径12.5cm～径約28cmまであります。今回は、そのうちの3点を展示しています。

銘文によれば、佐嘉さ が・有田ありだの泉山いずみやま・鹿島新町の女講中おんなこうちゆうや筑後国ちくごからも寄進されたことが分かっており、岩屋山が広く信仰を集めていたことがうかがえます。



↑ 岩屋山興法寺



新図書館長、着任のご挨拶

鹿島市民の皆さま、いつも鹿島市民図書館をご利用いただき、大変ありがとうございます。私、6月1日付で図書館の館長として勤務させていただく事となりました、市坪秀明と申します。

前職は、海上自衛隊において、北は北海道から南は長崎県ほかの各地で、陸上部隊や護衛艦で勤務してまいりました。その後、佐賀県内の製造業事務所で勤務の後、この伝統ある鹿島市民図書館に勤務できるご縁をいただきました。

初めての図書館勤務であり、至らない事も多々あるかと存じますが、一日も早く皆さまのお役に立てるよう努めてまいります。

前任者同様に、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



いちつほ ひであき
市坪 秀明 館長

おうちであそべる

すごろくプレゼント

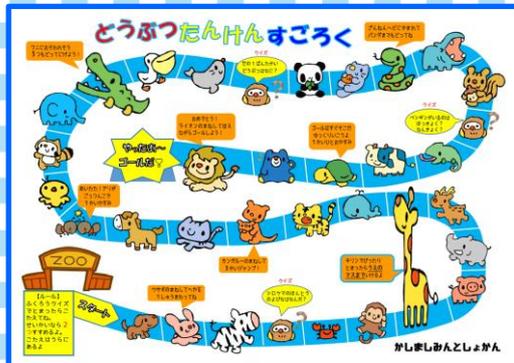


6^{がつ}月27^{にち}日(土) ~ 7^{がつ}月10^{にち}日(金)

ばしょ: としよかんかしだしカウンター



ようじむけ



ていがくねんむけ

